

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		中事業番号		1756								所属コード		215300	
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図 (目的)			
大綱 (取組)	Ⅳ 「誰もが地域で輝く未来」	3.4 3.8 17.17	○	5-3		○	○				健康をキーワードに、連携中枢都市圏における、医療・介護情報等を多角的に分析し、E B H P (：エビデンス・ベースド・ヘルス・ポリシー：根拠に基づく健康政策)を実施する。	広域連携中枢都市圏において、各種保健事業・介護予防事業等を広域連携都市圏で一体的に実施することなどを視野に、福祉、介護保険計画や国民健康保険におけるデータヘルス計画の推進及び圏域住民の健康寿命の延伸を図るため、医療・介護情報を多角的に分析し、疾病構造や介護認定状況、疾病の罹患や要介護状況に至る要因を把握し、健康寿命の延伸につなげると共に、圏域町村の健康格差の解消を図る。			
施策	4 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち														

事業開始時周辺環境 (背景)					現状周辺環境 (予測)					今後周辺環境 (予測)					住民意向分析				
中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生に資する、地方自治体による持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた取組の推進が必要とされており、本市にとどまらず、連携中枢都市圏域での地域課題・住民ニーズの解決に向けた施策創出が求められている。					さまざまなデータの分析結果から本市の「健康課題の全体像」をまとめ、こどもから高齢者まで様々な健康課題が明らかになったことから、自身の健康に関心を持ち、継続的に生活習慣を改善し、疾病を予防していくなど、健康指標の改善を図ることが必要とされている。 また、住民に身近な保健医療サービスを介護サービスや福祉サービスと一体的に提供できる体制の整備に努める必要がある。					健康課題とその解決方法を市民及び圏域市町村へ周知していくことで、自身の健康に関心を持ち、健康づくりの行動へのきっかけと定着が広域的に図られる。 また、特定健診や診療報酬明細など、健康や医療に関するビッグデータを活用した分析や事業を行うための基盤整備が整いつつあり、これらを多角的に分析することにより、本市において策定されている、保健事業実施計画や地域包括ケア計画、健康増進計画などを総合的に推進し、効果的、効率的な施策や事業へ展開することが求められる。					2024年度版の市民意見リーダーでは、これら重点的に取り組んで欲しい分野の1位に子育て、2位に高齢者福祉が、7位に医療、15位に健康づくり挙げられており、住民の関心が高い状況である。 また、満足度の2位が医療で、本市の初期・二次救急体制の充実などが要因と考えられるが、医療資源に関しては、本市のみで享受できるものではないため、周辺市町村住民の意向も含めた分析が必要である。また、5位が健康づくりとなっているが、福島県の健康寿命がワースト2位となっていることから、さらに健康に関する情報を発信していく必要がある。				

2 事業進捗等 (指標等推移)					まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名		指標名		単位	2023年度 (令和4年度)		2024年度 (令和5年度)		2024年度 (令和6年度)		2025年度 (令和7年度)		2026年度 (令和8年度)		2027年度		中間指標	
					計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	最終指標
対象指標	広域圏人口数			人		623,481		617,844		611,517								
活動指標①	分析及び研究数			施策 (事業)	6	13	2	2	3	1	1		1		1			
活動指標②	ココカラこおりやま総閲覧数			回		61,408	218,000	266,055	220,000	344,418	222,000		224,000		226,000			
活動指標③	イベント実施・参加回数 (R7年度～)			回							3		3		3			
成果指標①	健康寿命の延伸 (本市)			歳						79.84								
成果指標②	お通者度の延伸 (広域圏平均)			歳						17.77								
成果指標③	事業総数 (本市+広域圏)			施策 (事業)		4	5	5	4	4	3		3		3			1
単位コスト (総コストから算出)	1事業あたりのコスト			千円		3,850		4,654		6,083	4,667							
単位コスト (所要一般財源から算出)	1事業あたりのコスト			千円		3,176		4,654		6,083	4,667							
事業費				千円		5,396		10,669		12,141	14,000		14,000		14,000			
人件費				千円		10,003		12,599		12,189	12,599		12,599		12,599			
歳出計 (総事業費)				千円		15,399		23,268		24,330	26,599		26,599		26,599	0		
国・県支出金				千円		2,697					0							
市債				千円							0							
受益者負担金 (使用料、負担金等)				千円							0							
その他				千円							0							
一般財源等				千円		12,702		23,268		24,330	26,599		26,599		26,599	0		
歳入計				千円		15,399		23,268		24,330	26,599		26,599		26,599	0		
実計区分		評価結果	継続		継続		拡充		継続		拡充		継続					

活動指標分析結果					成果指標分析結果					総事業費 (事業費・人件費) 分析結果				
①福島県立医科大学との共同研究の2テーマについて、結核集団発生等対応のため県立医科大学との共同研究は見送ったが、本市の健康課題の全体像を活用し、健康づくりキャンペーンの実施や県立安積高校SSH連携探究授業による研究を行った。 ②健康づくりキャンペーンの一環で「心と体の健康応援サイトココカラこおりやま!」において本市の健康課題や各種健康づくり情報等の発信を行い、サイトの閲覧実績が計画値より上回り、市民の健康づくりに関する意識の高まりに寄与することができた。					① 郡山市健康づくりキャンペーンの実施 (こおりやま広域圏へ範囲拡大) ・パネル展・健康づくり体験イベント (1) イオンタウン郡山 11/6～11/14 体験イベント11/9・10 参加者数245名 (2) 須賀川市民交流センター 2/10～2/16 体験イベント2/15・16 参加者数211名 (明治安田生命との包括連携協定活用) 参加者アンケートの結果、健康意識が非常に高まった又は高まったと答えた方は、115/127人(90.6%)であった。 (3) 保健福祉フェスティバル 10/27 健康クイズ参加者109名 ② 「健康課題の全体像」を、健康づくりキャンペーン及び安積高校SSH連携探究授業において活用した。 ③ 心と体の健康応援サイト「ココカラこおりやま!」のサイト閲覧数は、前年度と比較して約1.3倍に拡大した。 ④ 結核集団発生等対応のため県立医科大学との共同研究は見送ったが、県立安積高校SSH連携探究授業に参加し、健康推進に係る研究を実施した。 ※ 健康寿命は、2020年男性、お通者度は、2022年男性の数値					【事業費】 拡充事業として「健康づくりキャンペーン」の対象区域をこおりやま広域圏に拡大したことにより、前年度と比較し事業費が増額となった。 【人件費】 令和6年度の人件費は、ほぼ横ばいであった。				

3 一次評価 (部局内評価)

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		3		
4 活動指標 (活動達成度)		4		
5 成果指標 (目的達成度)		4		

1 規模・方法の妥当性

2 公平性

3 効率性

4 活動指標 (活動達成度)

5 成果指標 (目的達成度)



継続	一次評価コメント
継続	令和4年度に開設した「心と体の健康応援サイト ココカラこおりやま!」及び令和5年度に新たに開始した「郡山市健康づくりキャンペーン」においては、市民連携、部局間連携により本市の健康課題及び健康づくり情報等を発信し、令和6年度は圏域市町村と連携イベントを行った。今後は、連携中枢都市圏「全世代健康都市圏」創造事業懇話会などと連携し、健康寿命の延伸や健康格差の解消を図る。 令和3年度から実施してきた福島県立医科大学との共同研究及び令和5年度に公表した「郡山市の健康課題」について、引き続き関係団体と連携し活用を検討する。

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス (会議レス)

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		3		
2 公平性		4		
3 効率性		3		
4 活動指標 (活動達成度)		4		
5 成果指標 (目的達成度)		4		

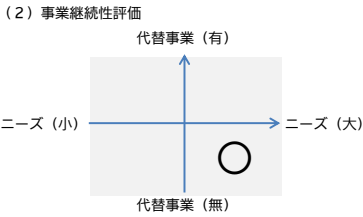
1 規模・方法の妥当性

2 公平性

3 効率性

4 活動指標 (活動達成度)

5 成果指標 (目的達成度)



継続	二次評価コメント
継続	令和6年度は、結核集団発生等対応のため、福島県立医科大学との共同研究については実施を見送ったものの、本事業のこれまでの分析結果及び健康課題の全体像を活用し、新たに県立安積高校SSH連携探究授業において研究を行った。また、郡山市健康づくりキャンペーン等でも分析結果を活用した。 心と体の健康応援サイト「ココカラこおりやま」の閲覧数については、前年度から約1.3倍増加しており、本事業に対する関心の高さがうかがえる。 今後においても、関係機関及びこおりやま広域圏自治体との連携強化を図りながら、継続して事業を実施する。 なお、成果指標については、毎年度の把握が困難な指標が設定されていることから、見直しを検討する必要がある。

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画				